

関西医科大学 広報



関西医科大学附属病院隣地に建設予定の看護学部棟完成予想図

平成30年4月 看護学部・看護学研究科開設へ(構想中)

Vol.35

CONTENTS

巻頭： 保健医療政策共同研究ワーキンググループ結成 看護学部・看護学研究科の開設準備状況について	P.1
トピックス： 健康なまちづくり・ヘルスケアビジネス 創生に向けた実証実験がスタート	P.2
法人： 教育研究担当職員のSD研修	P.4

大学： 国外臨床実習先の視察に関して	P.6
病院： 附属病院における院内感染防止の取り組み 「より安全な病院を目指すICT活動」	P.11
附属看護専門学校： オープンキャンパス	P.13
学会主催情報・学会賞受賞情報	P.14

WHO健康開発総合センターと共同研究ワーキンググループを結成

本学は、2015年11月に京都府立医科大学、奈良県立医科大学、大阪市立大学、和歌山県立医科大学、大阪医科大学、兵庫医科大学、近畿大学と「関西公立私立医科大学・医学部連合」(以下、医科大学関西連合)を結成しました。さらにこの度、連合加盟校と世界保健機関(WHO)健康開発総合研究センター(以下、WHO神戸センター)とで共同研究のためのワーキンググループを発足する運びとなり、9月5日(月)に京都府立医科大学で記者会見を行いました。

会見では、医科大学関西連合を代表して、京都府立医科大学吉川敏一学長がワーキンググループ発足の経緯を説明。従来から大学間共同研究の機会をうかがっていた医科大学関西連合と、関西圏の研究機関との連携強化を

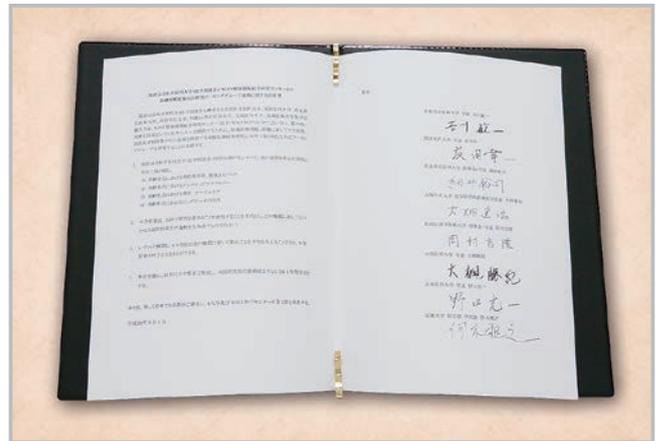
目標に掲げるWHO神戸センターの思いが合致し、ワーキンググループ結成および共同研究着手の合意にいったたと述べました。

続いて「高齢社会における高性能住居、健康まちづくり」「高齢社会におけるアシスティブテクノロジー」「高齢社会における食育、オーラルケア」「高齢社会におけるビッグデータの活用」の4テーマを軸に各大学の強みを生かしながら共同研究に取り組んでいくことが発表され、合意書簡を取り交わしました。

会見の場で本学友田幸一学長は、「ビッグデータや人工知能(AI)を活用しての診断・治療方法開発や健康寿命の延伸に関わる生体情報の管理とヘルスケアビジネスの創生に貢献したい」と発言しました。



会見に臨む友田学長(写真中央)。本学は私立大学の代表校を務めます



8大学の代表が署名した合意書

看護学部・看護学研究科の開設準備状況について

看護学部設置準備室 室長 神崎 秀陽

看護学部設置準備室が設置され1年半が経過し、現在は来年3月の文部科学省大学設置室への申請に向けた準備を順調に進めています。優れた教員や学生を確保するために学部と大学院の同時開設を申請しますので、それぞれのアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを定め、高度な看護の実践家を育成できるような科目設定とカリキュラム編成作業を確定中で、附属病院における看護学生実習体制、シミュレーションセンターや医学部図書館の共同利用等、様々な点を学内の各部門と協議・調整しています。来年4月からは学

外への広報も開始しますので、来夏のオープンキャンパスや平成30年1月の入学試験の概要についての検討も始めました。医科大学としての特色を最大限に活用できる魅力あるカリキュラムのもと、医学部との合同授業なども計画されており、看護学部・看護学研究科の開設は、本学の益々の発展に貢献できるものと期待されます。来る12月からは1年2カ月の工期で看護学部棟建設が着工予定であり、今後も看護学部設置準備室への一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



健康なまちづくり・ヘルスケアビジネス創生に向けた実証実験がスタート

10月3日(月)午前10時15分から枚方学舎1階オープンラウンジにおいて「ITを活用した健康生涯活躍のまち及びヘルスケアビジネス創生事業」実施にあたっての記者会見が行われ、友田幸一学長、健康科学教室木村穰教授が出席しました。

当事業は、本学を主体とした“健康行動-利益-循環型”事業で、参加者にリストバンド型ウェアラブル端末を貸与し、日常生活における身体活動や睡眠の状態を記録。医学的に分析した上で、健康に与えるよい影響を点数化し、提携施設で利用できるポイントとして参加者に還元します。また、データに基づき、参加者の健康づくりに役立つ情報を個別に提供します。さらに、医学的根拠に基づいた本学独自の健康サービス認証制度をスタート。認証サービスやそれに対する利用者の評価を閲覧できる「健ステログ」を立ち上げるなど、ヘルスケア領域での産業基盤構築を目指します。なお、本年度は実証実験として50名を対象に行い、次年度以降の本格稼働に

向けた検討データを収集します*。

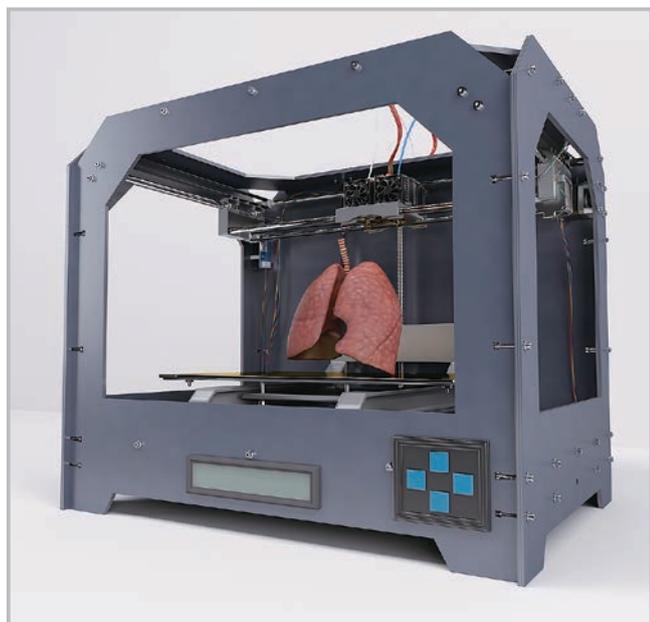
実施にあたっては枚方市が獲得した平成28年度内閣府地方創生加速化交付金を活用。会見には枚方市長伏見隆氏も列席し、これまでの研究や診療で蓄積した知見をいかした本学の新たな取り組みに対し「できる限り支援していきたい」と大いに期待を寄せました。

※定員に達し次第、参加者募集を締め切ります。



本事業で使用するウェアラブル端末を装着した伏見市長(写真左)

3Dプリンタと医学の融合「3Dプリンタプロジェクト」始動



※一般的な3Dプリンタによる臓器模型制作のイメージです

“現代の産業革命”とも言われる3Dプリンタ技術を医学の世界で活用し、いまだかつてない価値を生み出そう——。本学では、モノづくりの世界で存在感を増し続ける3Dプリンタと医学の融合による新しい技術革新を目指す「3Dプリンタプロジェクト」がスタートしました。これは、友田幸一学長の発案でスタートした学内プロジェクト。3Dプリンタを使って“術者の手にぴったりフィットする手術具”や“難易度が高い手術の練習に用いる、患者さんの体内を完全に再現したシミュレーション臓器”など、医療の現場で医師や看護師など医療従事者が思い浮かべる“あったらいいな”を形にする取り組みです。

現在、将来の試作品作成に向けてプロジェクトメンバーを募集中。学部学生からはすでに複数の参加希望があり、教職員の参加も積極的に応募を受け付けています。なお、参加申し込みや問い合わせ窓口は、画像支援モデル開発委員会(大学事務部研究課)です。

関西医科大学副学長に就任して

副学長(内科学第一講座 教授) 野村 昌作



このたび関西医科大学副学長を平成28年10月1日付けで拝命いたしました。主に教育を担当する副学長ということになりますが、その職責の重さに身の引き締まる思いでございます。私は平成22年の4月から、関西医科大学内科学第一講座の主任教授に着任し、以後、内科学第一講座の教室運営に携わってまいりました。そして、昨年(平成27年)の4月からは、友田幸一先生(現学長)の後任として、教務部長を務めております。教務部長の着任当初はその仕事内容の多忙さに困惑することも多々ありましたが、およそ1年半が経過し、最近は教務の仕事にも慣れ、それなりの働きを果たせているのではないかと自負している次第です。そういったタイミングでの今回の教育担当副学長の拝命は、山下理事長、友田学長をはじめとする大学の運営に携わる多くの方々に、教務における私の仕事ぶりをご評価頂

いた結果ではないかと感じており、誠に光栄に存じます。さて近年、医学系大学における教育の変革の波は非常に大きなものがあり、関西医科大学におきましてもここ数年教育カリキュラムの改訂をはじめとして様々なプロジェクトが進行してまいりました。教養・基礎社会医学系の分野では、KMULASによる教育のIT化の導入や研究医養成コースの充実など重要な取り組みが推進されており、臨床系の分野では、将来の医師国家試験改訂を

視野に入れた新たな国試強化対策も開始されております。中期的な問題としては、新しいモデルカリキュラムへの対応を意識した本学の教育カリキュラムの模索と、平成30年に開設が予定されている看護学部との共同授業実施に向けた新規カリキュラムの作成があげられます。また長期的な問題としては、3年後に予定しているJACMEによる分野別認証受審、さらにはその後予定されている大学基準協会による機関別認証受審に向けた準備が重要であると考えられます。このような様々な取り組みに対して、私自身も今後も積極的に牽引し、関西医科大学における教育の確立をめざして頑張る所存でございます。教職員の皆さまにおかれましては、今後とも引き続き御指導・御協力の程を何卒よろしくお願い申し上げます。

野村 昌作

略歴

昭和56年3月	関西医科大学卒業
昭和57年4月	関西医科大学第一内科入局
平成元年3月	関西医科大学大学院修了
平成元年4月	関西医科大学第一内科助手
平成6年7月	関西医科大学第一内科講師(輸血部講師併任)
平成11年5月	米国OAPメリーランド医学研究所(止血血栓部門研究員)
平成12年4月	関西医科大学附属香里病院 内科医長(輸血医長併任)
平成15年4月	関西医科大学第一内科助教授
平成15年10月	市立岸和田市民病院 血液内科 部長
平成22年4月	関西医科大学内科学第一講座 主任教授
平成27年4月	関西医科大学 教務部長
平成28年10月	関西医科大学 副学長

施設設備整備拡充資金の募集

関西医科大学では平成28年度の寄付金として「施設設備整備拡充資金」を募集しております。これは医学・医療技術の進歩に対応して教育・研究・診療の施設設備の整備・拡充を進めるためのものです。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

募集要項

1.募集対象	本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他
2.募集金額	1口 100万円 1口未満でも申し受けます。
3.お問い合わせ先	関西医科大学法人事務局募金室 〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL:072-804-2146(直通) FAX:072-804-2344

平成28年7月1日から平成28年9月30日までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のウェブサイトでの公開は控えさせていただきます。

教育研究担当職員のSD実施

このたび大学設置基準の改正により、スタッフ・ディベロップメント(SD)が義務付けられました。SDとは、大学運営に必要な知識・技能の習得を目的とした職員の能力開発を指します。文部科学省中央教育審議会は、「適切で効果的な大学運営のためには、職員の能力・資質向上が不可欠である」という考えに基づき、平成29年度から各大学に職員に対する研修の機会を設けることを求めています。

それを受けて今回本学では8月30日(火)午後1時30分から枚方学舎4階中会議室において、「教育研究担当職員のSD」を実施しました。友田幸一学長や野村昌作教務部長(内科学第一講座教授)出席のもと、SD義務化の背景やSDにより開発すべき職員の能力などについて講演が行われました。また、学生相談室からは学生の利用状況などについて報告がありました。

■ KMULAS(カムラス)とは …

関西医科大学独自の学習支援システム。オンライン上で講義予定の確認や、資料のダウンロード、課題の提出などが可能です。今回の研修で使用した「クリッカー」は、受講者が手元の端末で入力した回答が即時に講義者へ伝えられる機能で、教員が講義中に学生の知識習得度を測るのに役立ちます。

講演終了後、本年度医学部1学年から4学年の授業で利用している学習支援システム「KMULAS」を用いて「双方向授業」を疑似体験。「クリッカー」機能を利用して、講演のアンケートとミニテストに回答しました。



KMULASの使用画面

平成29年度入職予定者内定式挙行



澤田常務理事の挨拶に聞き入る内定者

10月3日(月)午前11時から枚方学舎4階中会議室において、澤田敏常務理事列席のもと「平成29年度入職予定者(事務員)内定式」が挙行されました。この日は平成29年度入職予定の事務職内定者10名が出席。澤田常務理事からの「何をするか、何になりたいかとの目的意識をしっかりと持って頑張ってほしい」との挨拶の後、内定証書が手渡されました。その後、内定者一人ひとりから自己紹介を兼ねての決意表明があり、就職先として本学を選んだ理由や未来に向けての思いを語りました。

新任係長研修

8月22日(月)および23日(火)の2日間にわたって「新任係長研修」が開催され、対象の看護師や薬剤師、事務員ら10名が参加しました。これは本学で行っている階層別研修の一つで、係長としてより高いレベルの業務遂行能力を身につけることを目的に実施されているもの。本学の財務状況やCSR、事業環境分析などについて学び、モデルケースを用いたグループワークなどを通して、課題解決力や事業戦略の考え方、人材育成を中心に理解を深めました。



2グループに分かれてディスカッションに臨みました

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	7月16日	オープン看護フェア	 <p>オープン看護フェア</p>
	7月21日	内定者集合会	
	8月4日	新任管理職研修	
	8月22日・23日	新任係長研修	
	8月30日	教育研究担当職員のSD研修	
10月3日	事務職内定式		
大学	7月23日	医学教育ワークショップ	 <p>医学部オープンキャンパス</p>
	7月23日	健康沿線トークカフェ	
	7月30日・8月7日	医学部オープンキャンパス	
	8月2日	がんプロセミナー	
	8月18日・19日	研究医養成コースコンソーシアム合宿	
	8月19日	クリニカル・クラークシップ中間検討会	
	9月5日	保健医療政策共同研究ワーキンググループ結成にあたっての記者会見	
	9月9日	科研費公募要領等説明会	
	9月13日	学生からの教育評価に基づく教員の表彰式	
	9月23日・24日	大学院選択必修コースリトリート合宿	
	9月26日	解剖体慰霊碑供養	
9月27日	学位記授与式	 <p>大学院選択必修コースリトリート合宿</p>	
附属病院	7月16日	サマーコンサート	 <p>TAKE! ABI 2016 in KANSAI</p>
	7月26日	1日看護師体験	
	8月24日	子ども病棟夏祭り	
総合医療センター	9月3日	腎センター地域医療連携の会	 <p>看護専門学校球技大会</p>
	9月17日	市民公開講座	
香里病院	9月25日	TAKE! ABI 2016 in KANSAI	
	7月2日	七夕コンサート	
附属看護専門学校	10月1日	市民公開講座	
	7月28日・31日 8月6日	オープンキャンパス	
	9月23日	球技大会	
卒後臨床研修センター	10月1日	学校祭	
	7月3日	レジナビフェア2016 in 大阪	
	7月9日	看護職実地指導者研修会	
	7月22日	平成29年度初期臨床研修医採用試験(第1回)	
	8月12日	平成29年度初期臨床研修医採用試験(第2回)	

国外臨床実習先の視察に関して

教務部長(内科学第一講座 教授) 野村 昌作

平成28年の7月2日から8日間、新規および既存の国外臨床実習先の視察目的で欧州を訪れました。今回の視察の参加者は、学長、教務部長、事務職員(国際交流センター)の3名です。具体的な訪問先は、ドイツのテュービンゲン大学医学部とレバークーゼン総合病院、およびスコットランドのグラスゴー大学医学部・看護学部の3施設です。レバークーゼン総合病院は既に学生を派遣していますが、残りの2施設は今回新規に実習をお願いする施設です。まず最初の訪問先であるテュービンゲン大学ですが、Prof. Hans Peter Zennerのお世話のもと、今後実習で学生を指導して頂くProf. Lothar Kantzをご紹介頂き、7月4日の朝8時から友田学長は耳鼻科病棟を、私の方は内科病棟を見学しました。その後医学部長のProf. Dr. Stephan Zipfelと面会し、2017年度から学生の相互交流に関する協定を締結することが決定しました。テュービンゲン大学の訪問を終え、次にレバークーゼン総合病院へ向かいました。翌7月5日に外科部長のProf. Karl-Heinz Vestweberのお世話のもと、レバークーゼン総合病院を見学しました。翌7月6日には、グラスゴー大学を訪問し、医学部長の

Prof. Matthew Waltersに面会し、2017年度から学生の相互交流に関する協定を締結することが決定しました。7月7日は午前中New Lister Buildingを、午後は附属病院であるQueen Elizabeth University Hospitalを見学しました。夕方には看護部を訪問し、看護部長のProf. Margaret Sneddonと面会し、部内を紹介していただきました。翌7月9日今回の全日程を終了し、グラスゴー国際空港から帰国の途につきました。



グラスゴー大学Prof. Matthew Walters(写真中央)と友田学長(同右)、野村教務部長(同左)

関西4医科大学合同 研究医養成コースコンソーシアム合宿

8月18日(木)・19日(金)の2日間、ホテルコスモスクエア国際交流センター(大阪市)において「研究医養成



記念写真に納まる参加者

コースコンソーシアム合宿」が1泊2日で開催されました。3回目となる今回も、コンソーシアムを形成する奈良県立医科大学、大阪医科大学、兵庫医科大学の他、兵庫医科大学の連携校である神戸大学医学部から参加があり、学生・教職員合わせて54名が参加しました。

今回は、各大学の参加学生による研究発表を中心に、「研究を進めていくのに必要な資質とは？」をテーマとしたグループでのワークショップなどのプログラムを実施。参加者は、大学の枠を越えて“研究”に対する姿勢や思いを共有しました。

がんプロセミナー「北河内がんカンファレンス」

8月2日(火)午後6時から附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて、「第6回がんプロセミナー 北河内がんカンファレンス」が行われました。本セミナーは、がんプロ(文部科学省採択「7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン」)の後援で、職種や診療科の垣根を越えたチーム医療について学ぶ場を創出することを目的に、定期的に行われています。今回は「<遺伝性腫瘍と遺伝カウンセリング>と「<婦人科がんの予防と検診>」をテーマに、講演とディスカッションが行われました。

セミナー前半で登壇した認定遺伝カウンセラー(病態検査学講座)佐藤智佳助教は、「医師と患者さん(およびその家族)では医学的知識の量や情報源、ものごとの判断材料、基準が異なる。その間のギャップを埋めるのが

認定遺伝カウンセラーの役割」と遺伝子検査に伴う遺伝カウンセリングの意義を説明しました。



遺伝子検査の結果の運用に関する質問も投げかけられました

平成28年度医学部オープンキャンパス

7月30日(土)、8月7日(日)いずれも午前11時から枚方学舎において、本学の魅力を伝えるさまざまなプログラムによる平成28年度医学部オープンキャンパスが実施されました。エントランスホールではソフトバンクロボティクス社の人型ロボット・Pepperの「関医くん」が参加者を出迎え人気を博しました。

多数の参加者が集まった加多乃講堂でのレクチャー(全体説明会)ではカリキュラムや学習環境の概要が説明され、診療参加型臨床実習における本学独自の取り組みや、新たに欧州の2つの大学と学術交流協定の締結合意に至ったことが紹介されるなど、充実した内容となりました。挨拶に立った友田幸一学長(7月30日)は、建学の精神や来歴について説明するとともに、「来年の4月に、ここ加多乃講堂で新入生となった皆さんを迎えることができれば大変喜ばしく思う」と歓迎の言葉を述べました。

2日間で延べ879名が訪れ、本学についての理解を深めました。



受け付け開始直後から多くの来場者でにぎわいました

主なプログラム

▶ 「キャンパス見学」

10名程度のグループに分かれ、在学生の引率で図書館や講義室などを見学しました。

▶ 「在学生トークイベント」(右写真)

在学生が受験勉強・学生生活について紹介。学生の“生の声”を聞くことのできる本企画は、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

▶ 「模擬講義」

7月30日は産科学・婦人科学講座岡田英孝教授が、8月7日は呼吸器外科学講座村川知弘教授が講師を務め、それぞれ生殖医療と肺がんについて30分程度の講義を行いました。8月7日は新たな企画として、学習支援システム「KMULAS」を利用したクリッカー機能の体験も実施しました。



▶ 「研究内容紹介パネル展示」

パネル展示に加え、本学と企業との産学連携で開発された「骨伝導集音器」を体験できるコーナーが設けられました。

▶ 「シミュレータ・BLS体験コーナー」(左写真)

シミュレーションセンターでは、本学で実際に使用されているシミュレータを用いて、BLS(一次救命処置)の手順をレクチャーしました。

▶ 「病院施設見学」(7月30日)

附属病院において、健康科学センターや手術室、ドクターズカーなど各種施設・設備を見学しました。

学生からの教育評価に基づく教員の表彰式

9月13日(火)午後3時45分から枚方学舎4階中会議室において「平成27年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式」が行われました。これは本学教員の教育を奨励しその資質の向上を図ることを目的とするもの。学生による授業アンケートの結果に基づき高い評価を得た教員もしくは科目を「関西医科大学教育奨励賞」、前年度に比べ著しく向上した教員もしくは科目を「関西医科大学教育努力賞」として表彰しています。この日、平成27年度表彰の対象となった教員には友田幸一学長から表彰状が手渡されました。



友田学長から一人ひとりに表彰状が手渡されました

受賞者 受賞科目一覧

▶ 教育奨励賞

● 1・2・3学年

教養・基礎社会系科目部門

1位	Human Biology(1学年)
2位	生物学(1学年)
3位	医学英語 I (IA~IC)(1学年)

教員部門

1位	奥藤 里香 助教 (医学英語 I B)
2位	川浦 孝之 助教 (情報処理実習)
3位	林 美樹夫 助教 (生理学1)
4位	森田 正之 講師 (分子生物学)
5位	武藤 恵 助教 (生理学1)

● 3・4学年

臓器別系統別コース部門

1位	小児の成長・発達コース(3学年)
2位	全人的医療学コース(3学年)
3位	呼吸器コース(3学年)

● 5学年

臨床実習科目部門

1位	整形外科学・リハビリテーション医学
2位	形成外科学
3位	麻酔科学

(平成27年度時点での職位で記載)

▶ 教育努力賞

科目部門	情報処理実習
------	--------

解剖体慰霊碑供養挙行

9月26日(月)午前11時から臨済宗建仁寺派大本山建仁寺の塔頭正伝永源院において、友田幸一学長、山下敏夫理事長はじめ教職員及び白菊会の藤澤直子会長と堂迫千草副会長が参列し、平成28年度解剖体慰霊碑供養が営まれました。これは、自らの遺志と無条件・無報酬の篤志をもって、医学の発展のために身体を提供された御霊を供養する儀式です。僧侶による読経の声が響く中、参列者は感謝と哀悼の意を込めてご冥福をお祈りしました。

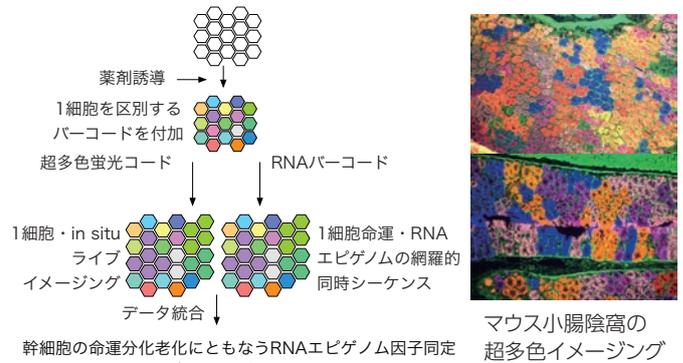


慰霊碑の前で読経を捧げるご住職と参列者一同

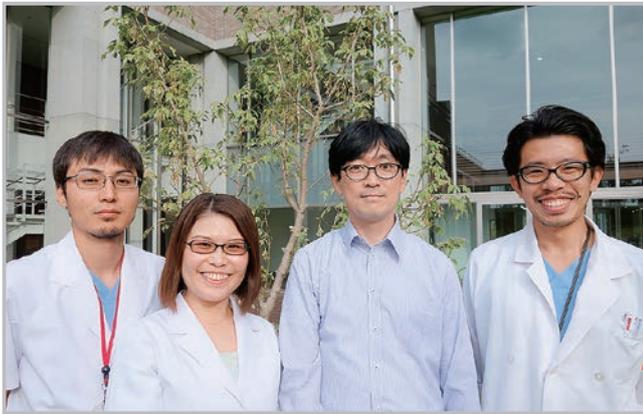
病理学第一講座上野教授と理化学研究所二階堂チームの研究課題が 科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業「CREST」に採択されました

戦略的創造研究推進事業「CREST」とは、国(科学技術振興機構)が設定した研究領域において、今後の科学技術イノベーションとなりうる様な、国内の複数の研究施設によって行われる卓越した共同研究課題を厳選し、5年半という長期の研究期間、大型予算を投下して基礎研究を推進する事業です。

今回、病理学第一講座上野博夫教授と理化学研究所二階堂愛ユニットリーダーの2施設共同研究チーム(二階堂代表研究者、上野分担研究者)は「生体制御の機能解明に資する統合1細胞解析基盤技術の創出」という研究領域において「臓器・組織内の未知細胞の命運・機能の1細胞オミクス同時計測」という研究課題を申請し採択



されました。本研究は上野教授チームの開発する超多色細胞標識法とDNAバーコーディングを融合したFluorocodingという手法を用いて少なくとも1000種類の細胞に異なる標識を付加してその命運を追跡し、二階堂ユニットリーダーチームが1細胞ゲノムDNA、RNA配列の網羅的シーケンス解析を行うことで、成体幹細胞を含む細胞階層構造を一挙に同定するというものです。上野教授チームでは上野教授、厚海奈穂助教、中村尚広大学院生(内科学第三講座)、大杉治之大学院生(腎泌尿器外科学講座)が中心となって17名のメンバーで研究に取り組みます。なお、本研究に対する助成は5年半で3.2億円(上野教授チームはその半額の1.6億円、いずれも直接経費)と、当事業においても最大規模で、採択は21応募中3件という狭き門でした。



上野教授(写真中央右)、厚海助教(同中央左)、中村大学院生(同左)、大杉大学院生(同右)

第34回医学教育ワークショップ

7月23日(土)午前9時30分から枚方学舎加多乃講堂、2階学生セミナー室、および各会議室において「第34回医学教育ワークショップ」が開催され、教職員58名・学生9名の計67名が参加しました。今年のテーマは『全員卒業、全員国家試験合格に向けて～成績不振学生を蘇らせるには～』とし、講師として招かれた金沢医科大学東伸明教授が、『金沢医科大学における低学年成績不振学生への取り組み』について講演しました。続いて行われたグループ討議では、1～6学年の学年ごとにグループを編成し、成績不振学生のフォロー策や仮進級制度等について活発な議論を交わしました。

グループ討議内容の発表や事後アンケートでは「教員の熱意が大切」「KMULASの有効活用が重要」など有

意義な意見が多数挙げられ、今後の医学教育に活かされていく予定です。



グループ討議の様子

西日本医科学学生総合体育大会結果

8月6日(土)から8月21日(日)にかけて「第68回西日本医科学学生総合体育大会」が開催されました(一部冬季競技は本年春に実施済み)。徳島大学医学部が代表主管校を務めた本大会では、徳島県を中心とした中国・四国(一部関西)の各地で競技が行われ、本学学生も日頃の練習の成果を十分に発揮しました。主な成績は右表の通りです。

水 泳	女子 200m メドレーリレー	4位	天野(2学年)・宇野(3学年) 北出(4学年)・早田(6学年)
	女子 100m 背泳ぎ	1位	天野 晶望(2学年)
	女子 50m 背泳ぎ	2位	天野 晶望(2学年)
		4位	早田 菜保子(6学年)
	女子 400m 自由形	4位	早田 菜保子(6学年)
スキー	女子 ジャイアントスラローム	3位	田中 里奈(3学年)
		7位	中村 仁美(5学年)
	女子 スーパージャイアントスラローム	4位	田中 里奈(3学年)
	女子 新人戦	8位	大澤 加奈子(2学年)

大学院学位記授与式

9月27日(火)午後3時30分から枚方学舎4階中会議室において、友田幸一学長をはじめ伊藤誠二副学長、中邨智之大学院教務部長らが列席し、「平成28年度9月学位記授与式」が挙行されました。新たに誕生した医学博士6名のうち当日出席した5名に友田学長から学位記が授与され、その後の学長告示では学位取得者の努力に対するねぎらいと「学位記取得はゴールではなくスタートであり、これからも研究者としてさらに精進してほしい」とのエールが贈られました。



授与された医学博士学位記を手にする修了生たち

大学院選択必修コースリトリート合宿

9月23日(金)・24日(土)の2日間、ホテルコスモスクエア国際交流センター(大阪市)において「大学院選択必修



研究分野や所属を越えた交流・情報交換の場となりました

修コースリトリート合宿」が、1泊2日で開催されました。今回は、大学院選択必修4コースの内、3コース(体の高次機能、形態形成と老化、社会と健康)に所属する大学院生と教員計64名が参加しました。

この合宿は今年から始まった新カリキュラムの目玉であり、日常の診療業務などから離れて集中的に研究のことを考えることができる環境で、互いに忌憚のない意見を交換する場となるよう構成。その狙い通り、参加者によるフリートークは深夜まで及び、事後のアンケートでも「情報交換ができて良かった」などのコメントが寄せられ、好評のうちに終了しました。

附属病院

「より安全な病院を目指すICT活動」

感染制御部 部長 宮良 高維

院内の療養環境の整備は医療機関の責務であり、特に三次教育医療機関である大学病院では、より安全な医療の提供を社会から求められています。この安全対策の一環である院内感染防止対策については、わが国の中規模以上の病院では、感染制御部やインフェクションコントロール・チーム（ICT）を設置して取り組むことが一般的です。

この対策を大きくまとめますと、①「院外から院内に、絶えず持ち込まれる耐性菌やウイルスを早期に検知可能な体制」、②「院内では、これらの病原体の伝播を防止可能な体制」の二点となります。具体的には、表に挙げた通りです。

わが国の院内で最も問題となりやすく、ICTが制圧の第一目標とする薬剤耐性菌は、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）です。当院では、全国の施設でも先駆けて、新規検出の全MRSA株をPOT法という遺伝子型別検査により、院内伝播の有無を毎週調査する体制が構築されています。これにより、最小2名の患者さんから同一型のMRSAが確認された場合には、感染者に共通する因子の有無をICTが調査し、院内伝播が疑わしい部署では感染防止手順の確認を繰り返すことで、院内伝播リスクの最小化を図ってきました。この結果、2015年の新規検出MRSA株数は2011年当時の半数以下（49.8%）となり、伝播経路が共通すると考えられる他の耐性菌の検出頻度も低下しました。

●院内感染防止策の具体例

- ①院外から院内に持ち込まれる耐性菌・ウイルス対策
 - ・検査室での病原体検出とICTへの早期情報集約
 - ・発熱や胃腸症状など同一症候の集積発生を早期に認識可能な体制の構築
- ②院内での病原体伝播防止
 - ・手指衛生など感染防止に関する職員の習慣形成
 - ・療養環境の保清
 - ・ワクチン接種による職員の集団免疫率の向上等

また、2012年度からは、専従の感染対策担当者（当院では大石看護師長）、専任の感染対策医師（筆者）などから成る感染防止対策組織（つまりICT）を設置する施設では、感染防止対策の地域支援を行うことで『感染防止対策地域連携加算』が算定可能となっています。当院のICTは、私立医科大学の中では最も多い19の連携病院に上述の様な感染防止対策のノウハウに関する支援も行っており、今後もより安全な療養環境の提供と地域連携に努めてまいります。

附属病院

附属病院看護部村山副部長が府知事表彰を受けました

9月8日（木）大阪府医師会館（大阪市天王寺区）において行われた平成28年度救急医療功労者の表彰式典で、附属病院看護部村山里香副部長が救急医療功労者大阪府知事表彰（個人）を受賞しました。この賞は、救急医療業務で優れた功績がある個人・団体へ贈られるもので、例年「救急医療週間」（9月9日＝救急の日を含む1週間）に表彰式が行われます。

■村山副部長コメント…

このような栄誉ある賞をいただき、私を支えてくださった周りの方々すべての方に深く感謝いたします。救急医療の現場は厳しいところですが、モチベーション高く救急医療・看護に取り組むスタッフを誇りに思っております。これからも、地域のみなさまが安心して救急医療・看護を受けられるよう、院内の体制の整備やスタッフの育成について関係スタッフと共に考え、実践してまいります。



附属病院 附属病院子ども病棟夏祭り

8月24日(水)午後6時30分から、附属病院5階プレイコートおよび小児医療センター病棟において「子ども病棟夏祭り」が行われました。この催しは、夏休みを病院で過ごす子どもたちに夏の楽しい思い出を作ってもらおうと、小児医療センターの医師や看護師、栄養士が中心となって毎年この時期に開催されているものです。

今年は多くの子どもたちが浴衣や甚平を着て参加。「少しでも不調や疲れを感じたら申し出る」という小児科学講座金子一成教授との約束を守りながらも、願いごとを託した風船飛ばし、盆踊りや輪投げ、ヨーヨーつりなどを存分に楽しみました。



会場はちょうちんで飾りつけられ、ポップコーンやわたあめの出店も用意されました

総合医療センター TAKE! ABI 2016 in KANSAI 開催

9月25日(日)午前10時から総合医療センターにおいて「TAKE! ABI 2016 in KANSAI」が開催されました。

ABI(ankle brachial index)とは、手と足の血圧差から動脈硬化が起きているか、また重症化する可能性がないかを調べる検査で、脳梗塞や心筋梗塞の危険性を測ることができるもの。今年で4



熱心に医師の説明を聞く参加者

回目となるこのイベントには314人が参加し、参加者は測定結果を

もとに、医師から説明を受けました。

同日正午からは総合医療センター血管外科駒井宏好教授(外科学講座診療教授)司会のもと「健康ですか?あなたの血管—知って得!元気の血管をたもつコツ—」をテーマに市民公開講座が開催されました。前半は、健康科学センター久保田真由美健康運動指導士が「生活習慣病の改善には中程度の運動が有効」と、運動面からアドバイス。後半は栄養管理部満森恵子管理栄養士が、バランス良く食べることの重要性や塩分を制限するポイントなど、食事面からアドバイスしました。講演後には説明された内容に関するクイズコーナーと質問の時間も設けられ、参加者からは久保田健康運動指導士と満森管理栄養士に多くの質問が寄せられました。

香里病院 香里病院市民公開講座を開催 —いろいろ悩む前に病院へ—

10月1日(土)午後2時30分から寝屋川市立地域交流センターアルカスホールにおいて香里病院市民公開講座が開かれ、寝屋川市民を中心に161人が集まりました。

香里病院高山康夫病院長から開会の挨拶の後、眼科本慎部長(眼科学講座講師)が座長を務め、講演がスタート。腎泌尿器外科吉田崇医長(腎泌尿器外科学講座助教)は「加齢に伴う排尿トラブル」と題して、大きく2つの症状(排尿症状と蓄尿症状)を紹介し、その症状の原因となる前立腺肥大症や過活動膀胱を例にとり、治療法を分かりやすく解説しました。婦人科生田明子部長(産科学婦人科学講座講師)は「婦人科受診は怖くない~婦人科診察のあれこれ~」と題して、婦人科受診の流れやホスピタルアートについて紹介

しました。診察時の不安や怖さを取り除くような講演に、参加者は真剣に耳を傾けていました。

なお、来年4月の市民公開講座では2016年4月から開設した「関医訪問看護ステーション・香里」やりハビリに関する講演会を予定しています。



第一部に登壇した吉田医長

附属看護専門学校

平成28年度オープンキャンパス開催

7月28日(木)・31日(日)・8月6日(土)、いずれも午前10時から牧野キャンパスにおいて、平成28年度附属看護専門学校オープンキャンパスが行われました。



人形を用いた沐浴に挑戦する参加者(7月28日開催回)

高校生や社会人、保護者など過去最大の506名が訪れ、さまざまなプログラ

ムを体験しました。

例年と同様、学校の概要や学生生活、カリキュラムなどの説明会、学生・教職員による個別相談会、看護師のやりがいを描いたムービーの放映、実習室での練習風景の見学や体験のほか、制服・白衣などの展示、過去の入試問題の公開などが行われました。また今年度初めての試みとして、学食メニューの試食と在校生による校内一周ツアーが実施され、好評を得ました。

午後からは希望者(3日間で237名)が枚方学舎と附属病院を見学。31日には牧野キャンパスから枚方キャンパスまでシャトルバスを運行し、参加者の送迎を行いました。

附属看護専門学校

平成28年度学校祭・球技大会開催

附属看護専門学校の秋の恒例行事である球技大会と学校祭が、牧野キャンパスで行われました。

球技大会は9月23日(金)午前9時から牧野キャンパスの体育館で、ドッジボール・バスケットボールの2種目が行われました。各競技では学生たちが、真剣な表情でプレーし、体育館全体が白熱。応援席でも、自分たちのチームが点数を獲得したり良いプレーを見せたりすると、大きな歓声が上がりました。また、試合終了後はチームの垣根を越えて互いの健闘をたたえあう学生の姿も見られました。

学校祭は10月1日(土)午前10時30分から牧野キャンパスの各所で行われました。今年は保護者のほか、地域

の老人会や一般の方も広く参加し、毎年恒例の血圧測定・足浴などの看護技術体験、模擬店、フリーマーケットなどを楽しんでいました。体育館ではダンスや音楽などのステージショーが行われ、学生は普段の学校生活と異なる時間を楽しみました。



模擬店の様子

卒後臨床研修センター

看護職実地指導者研修会

7月9日(土)・7月23日(土)いずれも午前9時から、附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて「看護職実地指導者研修会」が行われました。研修は、新人看護職員の臨床実践に関する指導・評価に必要な支援方法を学び、信頼関係構築に欠かせないコミュニケーションスキルを向上させることを目的に実施。参加者は、体験型学習を通じてコミュニケーション、チームビルディング、モチベーションなど、実地指導者としてリーダーシップを発揮するために知っておくべき要素への理解を深めました。

卒後臨床研修センター

平成29年度初期臨床研修医採用試験

7月22日(金)・8月12日(金)「平成29年度初期臨床研修医採用試験」が行われました。今年度は附属病院プログラム(40名)、附属病院小児科重点プログラム(2名)、附属病院産婦人科重点プログラム(2名)、総合医療センタープログラム(8名)の募集に対し、本学卒業生および卒業見込み者92名、そのほか57名から応募がありました。なお、採用者は10月20日(木)に確定し、本学では昨年引き続きフルマッチ(充足率100%)を達成しました。



2016年7月～9月、本学が主催および事務局を務めた主な学会、同期間中の学会賞受賞者を紹介します。

学会主催報告

ICCS 2016 Annual Meeting in Kyoto, Japan

■会期 2016年6月30日～7月2日 ■場所 ホテルグランヴィア京都

この度、国際小児尿禁制学会(International Children's Continenence Society : ICCS)2016の会長を、滋賀医科大学泌尿器科学講座河内明宏教授と共同で務めさせていただきました。また今回は第25回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会および第27回日本夜尿症学会学術集会とのジョイントミーティングとして企画し、全体の会期は平成28年6月28日(火)～7月3日(日)の6日間を京都で開催しました。

ICCSの学術集会をわが国で開催するのは、初めてであり、小児の泌尿・生殖器疾患を扱う国内外の主要3学会がジョイントミーティングを開催するのも初めての試みで、会長として、大変な栄誉であるとともに、身の引き締まる思いでした。

国内外から多数の参加者に来場していただき、無事盛会の内に終了しました。

【ICCS 2016会長／小児科学講座 金子 一成】



第27回 日本夜尿症学会学術集会

■会期 2016年7月2日～3日 ■場所 ホテルグランヴィア京都

■テーマ 夜尿症診療の国際化を目指して

この度、第27回日本夜尿症学会学術集会の会長を務めました。今回の学術集会は、国際小児尿禁制学会(International Children's Continenence Society : ICCS)2016と第25回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会とのジョイントミーティングとして開催しました。そこで、ジョイントミーティングのメリットを活かし、学会前日の7月2日(土)午後には夜尿症研究で有名なベルギー・ゲント大学小児科教授のAnn Raes先生に同時通訳付きでご講演いただきました。また学術集会2日目は、最近話題の腸内細菌叢と精神発達障害の関連について、九州大学大学院医学研究院・心身医学講座の須藤信行教授にご講演をいただきました。今回は例年と違い、学術集会の開催日が日曜日であったため普段ご参加されない開業医の先生にも多数ご参加いただき、過去最多に近い300名の参加者を得て、盛会の内に無事終了しました。

【第27回日本夜尿症学会学術集会会長／小児科学講座 金子 一成】



学会賞受賞情報

IASGO 2016 Travel Grant

外科学講座 小坂 久助教

■テ ー マ The clinical verification of our criteria of drain removal after pancreas resection

■授与学会 The 26th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists



Best Abstract Award

ICCS 2016 Annual Meeting

小児科学講座 加藤 正吾 大学院生

■テ ー マ Psychological stress causes reversal of diurnal and nocturnal urine volume: an animal study on the pathogenesis of secondary enuresis

■授与学会 International Children's Continenence Society 2016



日本夜尿症学会 第27回学術集会奨励賞

小児科学講座 武輪 鈴子 研究医員

■テ ー マ 夜尿症患者における睡眠の質の検討

■授与学会 第27回日本夜尿症学会学術集会



日本性機能学会 H28年度トラベルグラント

腎泌尿器外科学講座 谷口 久哲 助教

■テ ー マ Relationship between volume of the seminal vesicles and sexual activity in middle-aged men

■授与学会 20th World Meeting on Sexual Medicine



JPS&IAP&AOPA 2016 Resident Award

外科学講座 橋本 祐希 大学院生

■テ ー マ Optimal duration of prophylactic antibiotics administration in pancreaticoduodenectomy

■授与学会 第47回日本膵臓学会大会・第20回国際膵臓学会大会・第6回アジアオセアニア膵臓学会

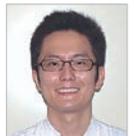


日本小児泌尿器科学会 優秀論文賞(基礎部門)

小児科学講座 北尾 哲也 大学院生

■テ ー マ Urinary Biomarker for Screening for Renal Scarring in Children with Febrile Urinary Tract Infection : Pilot Study

■授与学会 日本泌尿器科学会



関西医科大学広報 vol.34(2016年7月30日発行)掲載の下記項目に誤りがありました。下図の通り訂正し、お詫び申し上げます。

P.12「平成28年度科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)交付内定額(代表者分)一覧」内定件数、交付内定額(赤字が修正後の数字)

平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)交付内定額(代表者分)一覧

研究種目等	内定件数	交付内定額(直接経費)	交付内定額(間接経費)	交付内定額(合計)
基盤研究(C)	63	70,800,000	21,240,000	92,040,000
若手研究(B)	24	27,700,000	8,310,000	36,010,000
挑戦的萌芽研究	10	12,800,000	3,840,000	16,640,000
合計	97	111,300,000	33,390,000	144,690,000

(単位:円)

P.13「平成28年度科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)交付内定額(代表者分)一覧(日本学術振興会)」該当者(記載漏れ2名)

平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)交付内定者(代表者)一覧(日本学術振興会)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 継続	外科学	深山 紀幸	助教	糖尿病に着目した腹部大動脈瘤患者の観察研究	200,000	60,000
	病態検査学	保坂 直樹	講師		再生胸腺移植を併用した新しい骨髄移植法による癌治療	1,200,000

(単位:円)



教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。(主に平成28年7月1日～9月30日 ※判明分のみ)

耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 朝子 幹也 准教授	読売新聞 (7月10日朝刊)	鼻の中にポリープ(鼻茸)ができ、嗅覚障害などを引き起こす“好酸球性副鼻腔炎”が取り上げられ、仕組みや症状、効果的な治療法などについて解説するとともに、早期の治療を呼びかけました。また、本学が同疾患の治療に注力し、呼吸器科と共同で治療する気道アレルギー外来を設置していることが、あわせて紹介されました。
精神神経科学講座 織田 裕行 助教	京都新聞 (7月16日朝刊)	性同一性障害(GID)の専門家としてインタビューに答え、GIDの症状や治療、求められる施策・支援などを説明しました。また、その中で総合医療センターのGID専門外来についても紹介されました。
外科学講座 濱田 吉則 診療教授	読売新聞朝刊 (7月17日朝刊)	「くらし健康・医療」のコーナーの中で「日本小児へそ研究会」がコラムで紹介され、研究会の代表幹事として設立の意義などについて説明しました。
皮膚科学講座 清原 隆宏 准教授	日本テレビ「news every.」 (7月28日)	「every.キーワード」のコーナーにおいてあせもや皮膚炎など“夏の肌トラブル”が取り上げられ、清原准教授が推奨する日光による皮膚炎の予防法が紹介、解説されました。
眼科学講座 山田 晴彦 准教授	毎日新聞 (7月30日朝刊)	7月2日に白内障をテーマに開催された「第9回 目の健康講座」において総合司会を務め、その内容が採録紙面として掲載されました。
小児科学講座 金子 一成 教授	産経新聞 (8月2日朝刊)	日本夜尿症学会が定める夜尿症の診察ガイドライン改定にあたり取材を受け、早期に適切な治療を受けることの必要性を訴えました。
小児科学講座 金子 一成 教授	薬事ニュース (8月5日)	日本夜尿症学会策定の「夜尿症診察ガイドライン」改定について、「専門医だけでなく家庭医でも適切な治療を行えるようにし、潜在的な患者の早期受診を促す」とコメントし、その意義を説明しました。
内科学第一講座 倉田 宝保 診療教授	読売新聞 (8月7日朝刊)	「病院の実力(大阪編)」において、肺がんの特徴や薬物療法について解説しました。また、あわせて附属病院の肺がん診療実績が紹介されました。
総合医療センター	サンデー毎日 (8/28号)	カラーグラビア特集で総合医療センター新本館オープンが取り上げられ、施設の概要や院内調剤の導入、今後のリニューアル事業計画などが紹介されました。また、4月30日に行ったメディア関係者向け内覧会の様子が写真付きで掲載されました。
総合医療センター	毎日新聞 (8月24日朝刊)	総合医療センターにおいて「TAKE! ABI 2016 in KANSAI」が開催されることに取り上げられ、開催概要や申し込み方法などが掲載されました。
整形外科科学講座 齋藤 貴徳 准教授	毎日新聞 (8月28日朝刊)	「きょうのセカンドオピニオン」のコーナーにおいて、「手根管症候群」の原因や治療法について、読者の質問に答えました。
形成外科学講座 森本 尚樹 講師	産経新聞 (8月31日朝刊)	本学と国立循環器病研究センターなどが共同で研究を進める“先天性巨大色素性母斑”の世界初の治療法が取り上げられ、メリットや手順が紹介されました。また、その中で責任者を務める森本講師のコメントが掲載されました。
小児科学講座 金子 一成 教授	熊本日日新聞 (9月2日朝刊)ほか	“夜尿症”について、従来よりシンプルな治療法で約7割に効果が出ることが分かり、診察ガイドラインが改定されたことが取り上げられました。その中で原因などについて説明した金子教授のコメントが掲載されました。
関西医科大学	NHK「京いちにち」 KBS京都「newsフェイス」ほか (9月5日)	本学と関西圏の7公私立医科大学・医学部が、WHO健康開発総合センターと高齢社会の医療に関する共同研究ワーキンググループを結成したことが紹介され、9月5日に京都府立医科大学で行われた共同記者会見の様子が放映されました。
関西医科大学	京都新聞、奈良新聞ほか (9月6日朝刊) 産経新聞、毎日新聞ほか (9月7日朝刊)	9月5日に報道された、本学と関西圏7公私立医科大学・医学部とWHO健康開発総合センターの共同研究ワーキンググループ結成について紹介され、あわせて協定締結の経緯や取り組む予定の研究課題に関する内容が掲載されました。
健康科学教室 木村 穰 教授	テレビ東京 「主治医の見つかる診療所」 (9月12日)	「危険な場ちがい脂肪から身を守る方法」を紹介するコーナーにVTR出演し、筋肉が脂肪に置き換わって歩けなくなることもある“サルコペニア肥満”について解説しました。
心療内科学講座 福永 幹彦 教授	読売新聞 (9月21日夕刊)	連載「医なび」において“過敏性腸症候群”が取り上げられ、症状や要因についての解説およびコメントが掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

今回初めてこの『広報』の編集に携わりました。気を引き締めて取り掛からねばという緊張感と、新しい仕事に取り組むことへの“ワクワクした”気持ち、2つの思いを抱えながら、文章や写真と顔を突き合わせています。創立90周年や看護学部・看護学研究科開設をひかえ、これからの本学はさらなる飛躍の時期。本学の魅力を工夫して学内外に発信していけるよう、積極的に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも『広報』をよろしく願いいたします。(さ)

関西医科大学広報 Vol.35

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2547

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail : kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成28年11月10日(木)発行